

編集主幹のことば

創刊 25 年目の新しい編集主幹となって

外 須美夫*

「循環制御」は、日本循環制御医学会の機関誌であり、今から 25 年前の 1980 年に誕生した。最初の編集主幹を本学会初代理事長の斎藤隆雄先生が担当し、学会事務局が徳島大学医学部麻酔科学教室に創設された。当時の編集委員には山本道雄先生、岡田和夫先生、高折益彦先生、劔物修先生が名を連ねている。創刊 15 年目にあたる 1994 年からは劔物修先生が理事長と編集主幹に就任し、事務局も北海道大学医学部麻酔科学教室に移った。その後、劔物先生は 10 年間にわたり、学会の運営と「循環制御」編集の中心的存在として、強いリーダーシップを発揮され、多大な貢献をなされた。今回、劔物修先生の御退官に伴い、私が後を引き継ぐことになり、事務局も北里大学医学部麻酔科学教室に置くことになった。私としては分不相応で、その責をまっとうできるかと思うと尻込みしてしまうが、諸先輩がたや学会員の協力を頂けるなら、微力ながら貢献できるのではないかとその任をお引き受けした。1978 年に医学部を卒業し、この学会とともに麻酔の道を歩んできた者として、本学会に育てられてきたという思いもある。斎藤先生や劔物先生を初めとする本学会の創始者や牽引者への感謝の気持ちも込めて、本学会の発展と本誌の編集に全力を尽くしたいと思う。

本学会は、麻酔科医、循環器内科医、心臓血管外科医、生理学者、薬理学者らが参集し、専門分野にとらわれず、循環器領域のダイナミックな制御に関する学術研究を発表・討論しあう場として存在している。当初は、循環管理に興味を抱く麻酔科医の中から、麻酔科医として成長するためには循環制御に精通する必要がある、かつ周術期の循環管理や循環制御を麻酔科医だけで論じてい

は限界があるという認識のもと、集学的で学際的な場を求めて本学会が発足した。その後、内科・外科・基礎医学部門の第一線で活躍される人たちの参加を得て本学会は発展してきた。しかし、1996 年の日本心臓血管麻酔学会の設立により本学会の規模が縮小され、再度学会の目的や役割が問い直されている。新しい編集主幹および理事長として、本誌も何か新しいアイデアを取り入れていきたいと思う。また、日本心臓血管麻酔学会との共存のための努力を払おうと思う。もっと言えば、本学会と本誌の原点をもう一度見直して、新しいエネルギーが生まれる土壌を作りたい。そのために必要なことは何か。なにより麻酔科医への訴えかけが必要なのではないだろうか。麻酔科医が再結集する方策はないのか。そして、他領域への拡充ももちろん必要だ。学際的であろうとするなら、それを徹底することも一つの道だろう。そのために循環制御学なる領域をカバーする新しい人たちの参画を得たい。

本誌と本学会にどのような将来が待っているのか知るよしもない。私は若くはないがまだ私に残されている若気を発揮して船をこぎ始めたいと思う。途中で漂流するか難破するかもしれない。劔物先生を初め諸先輩がた、理事、評議員や編集委員の貴重な舵取りのアドバイスがなければ船は真っ直ぐ進まないだろう。なにより、会員の皆さまの育てる気持ちがなければ何をしていても無駄だろう。皆さまの育てる気持ちが育つような学会と本誌を目指して、微力ながら最大限の力を尽くしたい。

*北里大学医学部麻酔科